

# 地理歴史

## (世界史B)

発行者の番号略	教科書の記号番	判型	総ページ数	検定済年
2 東書	世B308	B5変型	454	平成28年
7 実教	世B309	B5変型	454	
81 山川	世B310	A5	462	
2 東書	世B311	B5	278	平成29年
46 帝国	世B312	B5	342	
81 山川	世B313	B5変型	454	
81 山川	世B314	B5	282	

※総ページ数は、目録に記載されている数

# 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

世界史B		冊数	7冊
発行者の略称・教科書の番号	東書308 実教309 山川310 東書311 帝国312 山川313 山川314		

## 2 学習指導要領における教科・科目の目標等

### 【地理歴史の目標】

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

### 【世界史Bの目標】

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 【世界史Bの内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 世界史への扉 ア 自然環境と人類のかかわり イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり ウ 日常生活にみる世界の歴史	(1) 内容の全体にわたって、次の事項に配慮するものとする。 ア 1の目標に即して基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成するとともに、各時代における世界と日本を関連付けて扱うこと。また、地理的条件とも関連付けるようにすること。 イ 年表、地図その他の資料を積極的に活用したり、文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れたりするなどして、具体的に学ばせるように工夫すること。 (略)
(2) 諸地域世界の形成 ア 西アジア世界・地中海世界 イ 南アジア世界・東南アジア世界 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 エ 時間軸からみる諸地域世界	(3) 主題を設定して行う学習については、次の事項に配慮するものとする。 ア 学習の実施に当たっては、適切な時間を確保し、年間指導計画の中に位置付けて段階的・継続的に指導すること。また、主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと。 (略)
(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラーム世界の形成と拡大 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 エ 空間軸からみる諸地域世界	(4) 近現代史の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 ア 客観的かつ公正な資料に基づいて歴史の事実に関する理解を得させるようにすること。 イ 各国史別の扱いにならないよう、広い視野から世界の動きをとらえさせるようにすること。 ウ 政治、経済、社会、文化、宗教、生活など様々な観点から歴史的事項を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養うこと。 エ 日本と関連する諸国の歴史については、当該国の歴史から見た日本などにも着目させ、世界の歴史における日本の位置付けを明確にすること。
(4) 諸地域世界の結合と変容 ア アジア諸地域の繁栄と日本 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ウ 産業社会と国民国家の形成 エ 世界市場の形成と日本 オ 資料からよみとく歴史の世界	
(5) 地球世界の到来 ア 帝国主義と社会の変容 イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 ウ 米ソ冷戦と第三世界 エ グローバル化した世界と日本 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題	

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 我が国と諸国との関係の記述についての時代区分別（古代、中世、近代、現代）のページ数及び全体に占める割合	目標及び内容の取扱い「(1) 世界と日本を関連付けての考察」	ページ、%
b 文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫している学習についての総ページ数及び全体に占める割合	目標及び内容の取扱い「(2) 文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れる工夫」	ページ、%
c 主題の例示についての箇所数	目標及び内容の取扱い「(3) 主題学習」	個

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

c 主題学習に関する内容

<その他>

\* 我が国の領域をめぐる問題の扱い

\* 国旗・国歌の扱い

（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* 北朝鮮による拉致問題の扱い

（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い

（調査の結果、記載のないことを確認した。）

\* 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い

\* オリンピック、パラリンピックの扱い

###### ② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

・ 学習指導要領に定められた「内容の取扱い」に「主題の設定や資料の選択に際しては、生徒の興味・関心や学校、地域の実態等に十分配慮して行うこと」とあることから、各教科書を比較検討するために上記cの事項を調査する。

\* 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。

\* 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。

\* 学習指導要領に基づき、環境にかかる諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。

\* 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

#### (2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

① コラム・資料・トピックスの扱い方

② 視覚的資料(写真、図・イラスト、グラフ、表など)

③ ゴシック等の用語

④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」【(1)内容 ア 調査研究の総括表】(世界史B)

調査項目			a に近我が 占代が め、の る現時 割代と 合)区諸 合)区 の分と べ)別 一)関 ジ古係 数代の 及、記 び中述 全世に 体、つ								b 割にな文 合つど化 いを遺 て取産 のり、 総入博 べ)れ物 一)る館 ジよや 数う資 及工料 び夫館 全し 体て調 にい査 占る・ め学見 る習学				c 主 題 の 例 示 に つ い て の 箇 所 数					
			古代		中世		近代		現代		(1)世界史 への扉	(2)諸地域 世界の形成	(3)諸地域 世界の交流 と再編	(4)諸地域 世界の結合 と変容	(5)地球世 界の到来	計				
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	個	個	個	個	個	個	(全体のページ数)	
東書	308	世界史B	15	3.3	11	2.4	28	6.2	65	14.3	0	0.0	3	1	1	1	1	7	454	
実教	309	世界史B 新訂版	15	3.3	13	2.9	24	5.3	58	12.8	0	0.0	3	1	1	1	1	7	454	
山川	310	詳説世界史 改訂版	9	1.9	7	1.5	25	5.4	31	6.7	0	0.0	3	1	1	1	1	7	462	
東書	311	新選世界史B	18	6.5	9	3.2	49	17.6	19	6.8	0	0.0	3	1	1	1	2	8	278	
帝国	312	新詳 世界史 B	14	4.1	11	3.2	72	21.1	35	10.2	0	0.0	6	1	1	3	1	12	342	
山川	313	新世界史 改訂版	11	2.4	15	3.3	64	14.1	34	7.5	0	0.0	3	3	3	6	2	17	454	
山川	314	高校世界史 改訂版	5	1.8	7	2.5	33	11.7	13	4.6	0	0.0	3	1	1	1	1	7	282	
平均値			12.4	3.2	10.4	2.7	42.1	10.8	36.4	9.4	0.0	0.0	3.4	1.3	1.3	2.0	1.3	9.3		

- ・全体のページ数は、見返しと裏見返し等を含めている。見開きは両面で2ページと数えた。
- ・aは、日本との関わりについての記述があるページ数と、全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。
- ・bは、文化遺産・博物館・資料館への調査や見学を例示する記述があるページ数と、全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。
- ・cは、主題を設定して学習に取り組む課題が示されている箇所を数えた。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 東書308】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	<p>1 自然環境 世界史の舞台 ・農業と気候</p> <p>2 東アジアでの日本の位置 ・「一衣帯水」 ・古代・中世の日本と東アジア ・近世の日本と東アジア ・近代の日本と東アジア</p> <p>3 病気と伝染病 ・人は病気になる ・病気と文化 ・伝染病の歴史 ・環境や社会がつくる病気</p>	<p>時間軸から見る諸地域世界 ビザンティウム、コンスタンティノブル、 イスタンブル</p>	<p>空間軸から見る諸地域世界 マルコ=ポーロと『世界の記述』の時代</p>	<p>資料から読み解く歴史の世界 歴史研究への挑戦</p>	<p>資料を活用して探求する地球世界の課題 難民を生みださない世界のために</p>
研究課題	<p>1 自然環境 世界史の舞台 世界各地の農業の特色について、調べてみよう。その際、各地域間の共通点や相違点をまとめ、それらと各地域の歴史との関係についても、考えてみよう。</p> <p>2 東アジアでの日本の位置 現在の日本の文化から、言葉、もの、年中行事などのテーマを選び、その歴史的な背景について調べてまとめ、日本の歴史と世界の歴史のつながりについて考えてみよう。</p> <p>3 病気と伝染病 私たちの日常生活に身近な病気を取りあげて、その病気と人類との歴史的なかわりや、現在の問題について調べて、まとめてみよう。</p>	<p>課題 王朝、都市、宗教、文化などから一つのテーマを選んで、おもな出来事などを調べて年表などに整理し、気が付いたことをまとめなさい。</p>	<p>課題 世界各地を旅行・訪問した人の記録を読み、その人が各地域をどのようにながめ、どう記憶しているか、調べなさい。</p>	<p>課題1 アメリカ独立宣言は比較的平易な英語で書かれている。ぜひ、原文を自分で訳してみよう。その上で、教科書に記載されている訳文と比べ、「翻訳者の解釈」と自分の解釈の相違について考察しなさい。 課題2 アメリカ独立宣言とフランス人権宣言と、イギリスの権利章典を比較し、権利章典の特徴を考察しなさい。</p>	<p>課題1 採択当時の「難民の地位に関する条約」は「難民」を「1951年1月1日以前の事件の結果として」(時間的制限)・「ヨーロッパで生じたもの」(空間的制限)と定義した。これらの制限は「難民の地位に関する1967年の議定書」で撤廃されており、「難民」の定義が変化してきたことがわかる。1951年当時、「難民」を限定的に捉えた理由を調べなさい。また、「難民」の定義が歴史的に変化してきた理由を考えなさい。あわせて、その結果、国際的な条約がどのように変遷していったか調べなさい。 課題2 難民の定住について、第三国としてどの国が多くの人々を受けいれているのか調べなさい。また、日本での受け入れの実態についても調べなさい。 課題3 難民問題発生の大きな理由は何か調べ、また、その原因をなくしていくためには何が必要なのか、考えをまとめなさい。</p>

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 実教309】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	<p>1 自然環境からみたシュメール人の都市国家</p> <p>2 歴史上にみる日本と中国の民間貿易</p> <p>3 サッカーと世界史</p>	<p>唐代までの東アジアの国際関係</p>	<p>第1次大交易時代とイブン=バトゥータの大旅行</p>	<p>資料から読みとくアメリカ黒人奴隷制度</p>	<p>資料を活用して探求する地球世界の課題</p> <p>1 統計資料からみる地球環境問題</p> <p>2 国際条約の理念にみる平和と人道の問題</p>
研究課題	<p>1 自然環境からみたシュメール人の都市国家</p> <p>・灌漑農業や森林の伐採が、環境破壊をひきおこしたという事例は、世界史上に数多い。インダス文明・イギリス産業革命・20世紀後半のナイル川流域やアラル海周辺などのケースについても、調べてみよう。</p> <p>2 歴史上にみる日本と中国の民間貿易</p> <p>①日本から中国に渡ったおもな人物、日中貿易で取引された商品を調べ、時代ごとにまとめてみよう。</p> <p>②政治面を中心に日中関係についてまとめた年表をつくり、①と重ねて気づいたことをまとめてみよう。</p> <p>3 サッカーと世界史</p> <p>・フィレンツェのカルチョは、市の守護聖人である洗礼者ヨハネの祝日にみあたる6月24日の午後、サンタ・クローチェ教会前の広場でおこなわれた競技が起源である。ほかにも、宗教行事とかかわりのあるスポーツ競技について調べてみよう。</p>	<p>①新羅が半島を統一するまで、半島三国が競うように唐に朝貢し、冊封を受けたのはなぜだろうか。朝鮮半島における各国の動きや関係を、年表や模式図にしてまとめ、その理由を考えてみよう。</p> <p>②隋の成立以後、日本は、冊封を受けない形で中国に朝貢するようになり、9世紀には遣唐使も派遣されなくなった。日本の中国外交の変化を、その背景も考えながら、時代を追ってまとめてみよう。</p>	<p>①『大旅行記』から要約した資料①～④の町が、地図上のどこにあるのか確かめて、西から東へ並べてみよう。</p> <p>②イブン=バトゥータのルート上には、当時どのような国があっただろうか。調べて地図に書き込んでみよう。</p> <p>③イブン=バトゥータの大旅行を可能にした第1次大交易時代は、いったいどのようなようにおとずれ、どのような時代だったのか、調べてみよう。</p>	<p>①資料1の総人口・奴隷人口・綿花生産高の数字を、一つの図のなかに折れ線グラフにして、奴隷制の拡大を確かめてみよう。</p> <p>②資料2と3から、どのような性別・年齢・職業の人々が、どのような価格で奴隷として売られていたのか、考えてみよう。</p> <p>③人間が「商品」として売買されることは、現代の世界でもあるのだろうか。新聞やネットなどで調べてみよう。</p>	<p>1 統計資料からみる地球環境問題</p> <p>①図1において、大気中の二酸化炭素濃度が急増した背景には、どのような世界史の出来事があったと考えられるか、討論してみよう。</p> <p>②図1の現象と図2の現象のあいだには因果関係があると考えられるか、それとも因果関係はうすいと考えられるか、その理由とともに考察し、討論してみよう。</p> <p>③なぜ、アメリカが京都議定書を批准しなかったのか、そしてなぜ中国やインドが京都議定書で二酸化炭素排出削減の義務を課せられなかったのかを調べてみよう。そして図3の現状をみて、その妥当性について討論してみよう。</p> <p>④図4をみたときに、③で発表した自分の考察が変わるか、変わらないかを考えてみよう。</p> <p>⑤図5にあるように、EUが国内総生産(GDP)増加と二酸化炭素排出量削減を同時に実現しているのはなぜか、その理由を調べてみよう。そして私たちが「持続可能な発展」を実現するためには、何が大切なのかをと討論してみよう。</p> <p>2 国際条約の理念にみる平和と人道の問題</p> <p>①パリ不戦条約がむすばれたのは、人々の戦争についての考え方がどのように変化してきたからだったのかを調べてみよう。また、パリ不戦条約による戦争違法化という考え方が、その後の世界でどのようにいかされてきたかを考えてみよう。</p> <p>②ジェノサイド条約が発効して以降も、この条約にいう集団殺害(ジェノサイド)は発生してきている。どのような事例があり、それに国際社会がどのように対応したかを調べてみよう。</p>

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 山川310】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	1 気候変動と私たちの生活 2 漂流民のみた世界 3 砂糖からみた世界の歴史	時間軸からみる諸地域世界	空間軸からみる諸地域世界	資料から読み解く歴史の世界	資料を活用して探求する地球世界の課題
研究課題	1 気候変動と私たちの生活 ・自然環境の変化と人類 ・夏がこない年と小氷期 ・貧者のパン 2 漂流民のみた世界 ・鎖国時代の世界知識 ・大黒屋光太夫のロシア経験 ・漂流民の役割 3 砂糖からみた世界の歴史 ・甘味料・薬・祭の品としての砂糖 ・史料が語る砂糖の生産と消費 ・コーヒー・紅茶と砂糖との出会い	課題 ローマ-世界帝国への道 イタリア半島の一都市国家にすぎなかったローマは、やがて広大な領域を支配する世界帝国へと成長した。それ以前の古代帝国が成し遂げられなかった、オリエント・地中海世界の政治的統一を、ローマだけが達成できたのはなぜだろうか。また、支配領域を維持するために、ローマはどのような変化をとげていったのか。世界帝国を築き上げるまでのローマの発展とその後の推移を年代順に整理し、そこにどのような因果関係や諸段階がみられるのか、探求してみよう。 ・次のできごとを年代順に整理し、年表をつくってみよう。 十二表法の制定・アクティウムの海戦・スパルタクスの乱・護民官の設置・グラックス兄弟の改革・五賢帝の統治・帝国の全自由民にローマ市民権付与・カエサルのカリア遠征・ホルテンシウス法の制定・帝政の開始・キリスト教の公認・シチリアが初の属州となる・ディオクレティアヌス帝の即位 ・年表に整理したできごとをつぎの四つの段階にわけ、因果関係を考えてみよう。 共和政と身分闘争の時代 ローマ社会の変化と内乱の1世紀の時代 元首政の時代 専制君主政の時代	課題 近代以前の交流圏 ・イブン=バットゥータが訪れた都市名・地名を旅行記の記述の順に示してある。地図上で各都市を線で結び、13世紀のおもな商業ルートを示した170頁の地図と比較し、その関係を考察してみよう。 イブン=バットゥータが訪れた都市名・地名 モロッコ→チュニス→【カイロ】→ダマスカス→メディナ→メッカ→【イスファハーン】→メッカ→アデン→キルワ→ホルムズ→メッカ→イズミル→【コンスタンティノブル】→【サライ】→サマルカンド→カーブル→【デリー】→カリカット→モルディヴ→セイロン→ベンガル→スマトラ→【泉州】→北京(大都)→(モロッコにいったん帰国)→【グラナダ】→【マリ】→トンプクトウ→モロッコへ帰国 ・【 】で囲まれた各都市は、イブン=バットゥータが訪れたときになんという王朝が支配していたのだろうか。下の王朝名から選んでみよう。 王朝名 ビザンツ帝国 トウグルク朝 マリ王国 ナスル朝 元朝 キプチャク=ハン国 マムルーク朝 イル=ハン国	課題 異文化との出会い 第Ⅲ部で取り上げた時代は、諸地域世界の交流が地球規模に拡大し、世界の一体化のなかで異文化との接触・交流が活発になった時代である。人々は外国の社会や文化をどのように観察し、描写してきたのだろうか。 18世紀から19世紀にかけて、ヨーロッパとアジアとの関係は大きく変動し、ヨーロッパ人のアジア観もかわっていった。下にあげたマカートニーの日記を読み、彼の中国観と、時代背景をまとめてみよう。	課題 世界の食糧危機問題を考える ・「サハラ以南アフリカの飢餓人口」(出典FAO)資料を見て、飢餓人口の意味について考える。 問 ・右のグラフの飢餓人口とはどういう意味だろう。また、サハラ以南の地域にある国々を地図で確かめてみよう。 問 ・飢餓人口が多くなるのはなぜか、他の統計資料を参考にして考えてみよう。 問 ・飢餓人口が多くなると、その社会はどのような影響を受けるだろうか。下の写真を見て具体的な影響を考えてみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 東書311】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	①自然環境と人類のかかわり(P6~7) ②日本の歴史と世界の歴史のつながり(P8~9) ③日常生活にみる世界史(P10~12)	①時間軸からみる諸地域世界(P65~66)	①空間軸からみる諸地域世界(P109~110)	①資料からよみとく歴史の世界(P187~188)	①民族や文化のちがいをみとめながら生きる(P254~255) ②「青い宝石・地球」を未来にうけつぐ(P256~257)
研究課題	①-1 カカオはどこからもたらされ、チョコレートやココアとして私たちに身近なものになったのだろう。 ①-2 宗主国の主導でカカオ栽培に特化していったガーナやコートジボワールは、独立した後、どのような課題に直面したのだろうか。考えてみよう。 ①-3 世界にはさまざまな作物がある。それらはどのような自然環境で栽培されるようになったのだろうか。調べてみよう。 ①-4 上の例を参考に、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから、自然環境と人類のかかわりについて考察してみよう。 ②-1 この遣欧少年使節が実現した背景や当時の日本と世界のつながりを考えてみよう。 ②-2 ポルトガル人はどのような航路をへて日本まで来ていたのだろうか。調べてみよう。 ②-3 ポルトガル人が日本に与えた影響をまとめてみよう。 ②-4 上の例を参考に、日本の歴史と世界の歴史のつながりについて、人物やもの、技術、文化、宗教、生活などから調べてみよう。 ③-1 服装から、支配者の統治策や宗教上の考えかたなど、その当時の社会の状況をみてみよう。 ③-2 服装のほかに、「権威」「威厳」をあらわすものには、どのようなものがあるか調べてみよう。 ③-3 球技にはどのような歴史があるのだろうか。 ③-4 イギリスのフットボールは、どのようなルールからサッカーとラグビーに発展してきたか、調べてみよう。 ③-5 テニスがどのようにして生まれ、今日のようなスポーツになったか、その歴史をたどってみよう。 ③-6 上の例を参考に、衣食住、家族、余暇、スポーツなど日常生活から興味あるテーマを選び、その起源や変遷などの歴史を調べてみよう。	①-1 ここでは国づくりが進んでいたころの古代日本と東アジア諸国との交流やたがいの影響について、時間的なつながりに着目して見てみよう。 ①-2 年表の[ ]に国名を入れて、年表を完成させよう。 ①-3 遣唐使は、ある時期から遭難の危険性の高い航路をとるようになった。その時期と航路を調べてみよう。またその背景には、東アジアにおける国際関係がどのように影響しているのだろうか。年表から読みとってみよう。 ①-4 大陸から日本へ伝えられた文化にはどのようなものがあるだろうか。現在、私たちの生活に影響を与えているものを調べてみよう。 ①-5 遣唐使の時代以降、平安時代や鎌倉時代、室町時代や江戸時代における日本と東アジアの国々との関係を年表にまとめてみよう。 ①-6 上の例を参考に、たとえば仏教の成立や発展に関連する事項と仏教建造物などの広がりや、ローマ帝国の政治の推移とキリスト教の展開に関連する事項などを、年代を追いながら整理して年表や図にまとめてみよう。	①-1 大旅行家イブン・バトゥータの『大旅行記』から、14世紀のユーラシア大陸の交流のようすをみてみよう。 ①-2 本文中の波線の都市を地図で確認しよう。 ①-3 商業の発展とイスラームとの関係を調べてみよう。 ①-4 モンゴル人は商業の発展のためにどのような工夫を行ったのだろうか。 ①-5 西アフリカの「黄金の国」伝説について、調べてみよう。 ①-6 上の例を参考に、マルコ・ポーロなどの旅行記を使って、それぞれの時代の空間的なつながりについて調べ、地図を作成してみよう。	①-1 一つの写真を手がかりに、数枚の絵とあわせ、その時代背景を考察してみよう。 ①-2 では、ヨーロッパから多くの人々がエジプト観光に行くようになったのはいつごろなのだろうか。 ①-3 では、このような団体旅行は、いつごろ生まれたのだろうか。 ①-4 イギリスで旅行業は発展したのはなぜだろうか。 ①-5 エジプトが大きく変化した19世紀後半とはどのような時代だったのだろうか。 ①-6 スエズ運河の開通によって、ヨーロッパからアジアへのルートがどのように変化したか、調べてみよう。 ①-7 明治期に日本に滞在したヨーロッパ人の日記や書簡、当時の日本人の文献などを読み、外国人から見た日本や日本人、および日本人の外国への認識などについてまとめてみよう。 ①-7 上の例を参考に、たとえば中世とルネサンス期の聖母子像を比較して(p.135)ルネサンスの意味や背景について考えるなど、絵画や風刺画、写真などの画像資料から、その資料がつけられた時代背景や人々の意識について考えてみよう。	①-1 上の年表にあがったできごとを一つ取りあげ、そこにいたる経過や結果、あるいは原因や背景を、文献やインターネット、当時の新聞記事を利用して調べ、まとめてみよう。 ①-2 紛争が激化した要因、あるいは紛争や問題が解決できた要因をあげ、それらの関連を考えて、発表してみよう。 ①-3 上のグラフから読みとれる傾向をあげてみよう。また、海外で活動する日本人の活動先やその変遷を調べてみよう。 ①-4 こうした傾向が生じた歴史的背景を探り、年表や地図にあらわし、発表してみよう。 ①-5 「ともに生きる」ために私たちが解決すべき課題や、課題解決に向けた方法を、具体的な実践例を参考にしておたがいに提案し、話しあってみよう。 ②-1 人類と水とのかかわりの歴史を、これまで学んだ内容を参考に、文献やインターネットを使って調べてみよう。 ②-2 人類は自然環境に対してどのような働きかけをすべきか考え、自分の意見を発表してみよう。 ②-3 上の年表の事項を複数取りあげ、これまで環境問題に国際機関、NGO、政府などはどのように取り組んできたかを調べてみよう。 ②-4 そのうえで、調べたことをもとに、持続可能な社会の形成に向けて今後どのように問題解決をはかっていけば良いかを考え、話しあってみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。



「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c. 主題学習に関する内容 発行者 帝国312】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	<p>①自然環境と人類のかかわり①(巻頭Ⅲ～P1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動と歴史</li> </ul> <p>②自然環境と人類のかかわり②(P2～3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害と人類の歴史</li> </ul> <p>③日本の歴史と世界の歴史のつながり①(P77)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「官から民へ」の日宋貿易～博多と寧波の繁栄</li> </ul> <p>④日本の歴史と世界の歴史のつながり②(P130)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界をめぐる銀</li> </ul> <p>⑤日本の歴史と世界の歴史のつながり③(P138)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毛皮が動かす世界の歴史</li> </ul> <p>⑥日常生活にみる世界の歴史(P152～153)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界に伝播した産物～コロンブスの交換</li> </ul>	<p>①時間軸からみる諸地域世界(P70)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暦は何のためのもの?～「暦の歴史」年表をつくって、考えてみよう～</li> </ul>	<p>①空間軸からみる諸地域世界(P119)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字はなぜ広まったのか?～文字のルーツと広がりをもとめてみよう～</li> </ul>	<p>①資料からよみとく歴史の世界①(P176)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・17～18世紀のオランダと日本の絵画からみえる交流</li> </ul> <p>②資料からよみとく歴史の世界②(P194)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間および市民」とは誰か～「フランス人権宣言」と「女性宣言」</li> </ul> <p>③資料からよみとく歴史の世界③(P229)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服装から見る日本と中国の西洋化～李鴻章と森有礼の対話より～</li> </ul>	<p>①資料を活用して探究する地球世界の課題(P326)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の課題を歴史的な視点でとらえ考察してみよう</li> </ul>
研究課題	<p>①-1 1875年と2006年の同じ氷河の写真と比較してみよう。</p> <p>①-2 縄文時代の海進期(海面が上昇した時期)は今より何℃くらい気温が高かったといえるだろうか。</p> <p>①-3 気候の温暖化・寒冷化によって人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p> <p>②-1 大きな自然災害は、被害だけではなく、後世にどのような影響をもたらすだろうか。</p> <p>②-2 歴史の視点から自然災害を見ることに、どのような意義があるだろうか。</p> <p>③-1 どうして博多がさかえたのだろうか。</p> <p>③-2 この時期、東アジアの政治状況と交流のようすはどのようなものだったのだろうか。</p> <p>④-1 ①の地図に描かれているHivamiとはどの場所をさしているのだろうか。</p> <p>④-2 なぜその地名が①の地図に描かれたのだろうか。</p> <p>⑤ 毛皮の交易は、清とロシアの拡大にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <p>⑥ コロンブスのアメリカ大陸到達以降、世界各地の食生活や食料生産はどのように変わったのだろうか。</p>	<p>①-1 西暦と年号の始まりはいつか、また、日本ではいつから使われ始めたのか、教科書から抜き出すなどしてあげてみよう。</p> <p>①-2 書き出した要素を端的な言葉で時代順に並べよう。また、影響を受けたり与えたりしたものがある場合には書き加え、線などで結んでみよう。</p> <p>①-3 グループになり、自分とほかの人の年表を見比べて、たりないものを確認しよう。そして、なぜその時代にその暦が導入されたのか、時代背景から仮説を立てて話し合ったり、資料から調べたりして、年表にその理由を書き加えよう。</p> <p>①-4 完成した年表を見て、暦とは年代を表すほかにどのような役割があったのか、考えてみよう。</p> <p>①-5 また、ほかの地域の暦はどのような歴史をもつのか、変化や発達についてまとめたり調べたりしてみよう。</p>	<p>①-1 私たちが目にする文字にはどのようなものがあるだろうか。また、これまでの学習でどのような文字が出てきただろうか。グループになり、思いつくものを出し合ってみよう。</p> <p>①-2 ステップ①で出し合った文字の名称を、地域ごとに分類し、その中の一つにしぼって、ルーツや派生を地図上に書き表してみよう(例を参照)。その際、資料集や地図帳なども見てみよう。</p> <p>①-3 ステップ②の地図を見て、その地域の文字の広がりには、どのような背景があったといえるか、グループで話し合い、仮説を立ててみよう。それをクラスで発表しよう。</p> <p>①-4 各班の発表を聞き、共通項や地域による特殊性にも留意して、文字はどのような要因によって広がるのか考えてみよう。</p>	<p>①-1 資料①から、日本とのかかわりがわかるものを探してみよう。</p> <p>①-1 資料①と②の絵画で共通する画法は何だろうか。p.156もふり返って考えてみよう。</p> <p>①-3 資料②に描かれている題材から、オランダで発達した学問の影響が読み取れる。それは何か、p.175もふり返りながら考えてみよう。</p> <p>②-1 資料①『フランス人権宣言』のそれぞれの条文は何について言及しているのだろうか。</p> <p>②-2 『フランス人権宣言』が発表されたのちに、選挙権を得た人々は誰だったのだろうか。</p> <p>②-3 資料②『女性宣言』には、『フランス人権宣言』に書かれていない、女性の権利が明記されている。その部分はどこだろうか。</p> <p>②-4 『女性宣言』は当時の人々からどのように受け止められたのだろうか。</p> <p>③-1 李鴻章が考える西洋文明の導入とはどのようなものだろうか。資料やp.224～225の内容をふまえて考えよう。</p> <p>③-2 森有礼が考える西洋文明の導入とはどのようなものだろうか。資料やp.225～226の内容をふまえて考えよう。</p>	<p>①-1 現在問題になっている世界的課題について、教科書や新聞・書籍・インターネットなどで調べ、現状を確認しよう。文章だけでなく、図や写真からも状況を読み取ってみよう。</p> <p>①-2 教科書をふり返し、歴史的な経緯の記述や図版・写真を読み取ってみよう。また図書館の書籍や政府・国連などのホームページも活用しよう。</p> <p>①-3 具体的にどのような活動が行われているかなどをインターネットなどで調査し、解決の方法と自分なりの展望を示そう。</p> <p>①-4 考えを文章にまとめたり、発言を通して意見を人に伝えてみよう。対立する意見に対しては、一度同じ立場にたって考えてみよう。</p>

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 ◦ 主題学習に関する内容 発行者 山川313 】【世界史B】

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	<p>①自然環境と人類の関わり 水・土地・都市(P8～9)</p> <p>②日本の歴史と世界の歴史のつながり japanとjaponisme(P10～11)</p> <p>③日常生活にみる世界の歴史 砂糖・茶・コーヒー(P12～13)</p>	<p>①古代における諸地域世界の発展(P80)</p> <p>②諸地域世界のつながり(P81)</p> <p>③時間軸からみる諸地域世界(P82～83)</p>	<p>①政治と宗教の結びつき(P164)</p> <p>②ユーラシアにおける新時代への胎動(P164～165)</p> <p>③空間軸からみる諸地域世界(P.166～167)</p>	<p>①世界の一体化と交易の構造(P242)</p> <p>②国家構造と社会・文化の特質(P242～243)</p> <p>③図像史料から読みとく世界の歴史(P244～245)</p> <p>④近代の特質(P316～317)</p> <p>⑤近代のインパクト(P317)</p> <p>⑥文字資料から読みとく世界の歴史(P318～319)</p>	<p>①成功と挫折、そして再出発(P430～431)</p> <p>②資料を活用して探究する地球社会の課題(P432～435)</p>
研究課題	<p>① このように、自然と人類の関係の基本である「水と土」という視点から、世界の歴史を考えてみよう。</p> <p>② つぎの世代の日本人は、世界から何を吸収し、世界に何を発信できるのだろうか。考えてみよう。</p> <p>③ このように、砂糖・茶・コーヒーは、きわめてなじみ深い飲食物品であるが、おのおの複雑で興味深い世界史を背景にしている。このことを念頭に置き、周囲を見渡しながら、身近なものにこめられた歴史について考えてみよう。</p>	<p>①-1 人類が地球上の各地で最初の文明を形成したとき、気候や風土などの自然条件に対してどのような対応をしたのだろうか。</p> <p>② 都市国家が広い領域をもつ国家、そして帝国になっていく過程は、国家の内部にどのような変化をもたらしたのだろうか。政治や経済の仕組み、そして社会のあり方の変化を、地域や国家ごとにかけて整理しながら考えてみよう。</p> <p>② 地域世界のあいだに形成されたネットワークでは、どのような交易活動がなされ、いかなる思想や宗教・芸術が伝えられたのだろうか、調べてみよう。</p> <p>③-1 年代を調べて右の年表を完成したうえで、その原因や背景を簡潔にまとめ、アテネの民主政の歴史を自分で説明してみよう。</p> <p>③-2 さらに、右頁上に掲げたギリシア人史家トウキュディデスの『歴史』に記された演説の一節を読み、この演説がいつ頃、だれによって語られたものであるか確認したうえで、その当時のアテネの政治制度を調べ、近代の民主政治とどのような違いがあるか、その相違は社会の仕組みとどのように関係しているか考えてみよう。</p> <p>③-3 年代を調べて右の年表を完成したうえで、できごとの原因や経過、結果と背景をまとめながら、ローマでは完全民主政を実現したアテネの場合とどのような点で違いがあり、異なった政治体制を実現することになったのか、考えてみよう。</p>	<p>①-1 各地域社会における政治権力と宗教の具体的な結びつき方を比較してみよう。</p> <p>①-2 中世には、政治権力と宗教のあいだでの争いも数多くおこっている。いくつか例をあげ、争いの理由を考えよう。</p> <p>② ユーラシアの各地を結ぶおもな交易路と交易都市を、2枚の地図に書き入れてみよう。また、その交易路で活躍したのは、どのような人々だったか考えてみよう。</p> <p>③-1 153頁の地図をみながら、バグダード・イェルサレム・コンスタンティノブル・ヴェネツィア・パリのおおよその位置を確認してみよう。また、それらの都市を結ぶ交通路について調べてみよう。</p> <p>③-2 しかし実際には、インドや中国から多くのモノが、商品として中東やヨーロッパに運ばれていた。代表的な商品をあげてみよう。</p> <p>③-3 「混一疆理歴代国都之図」をよくみて、この地図のどの部分が現在私たちの知っている日本・朝鮮半島・中国・インド・アフリカ・ヨーロッパにあたるかを確かめてみよう。また、この地図の描き方から、この地図の作者は世界をどのように理解していたのか考えてみよう。</p> <p>③-4 ユーラシアの東と西のあいだで知識の交流がすすみ、人々が世界を同じ地図に基づいて理解するようになるのはいつ頃のことだろうか。また、それはなぜ可能となったのだろうか。これらのことに注意しながら、第三部以後の学習をすすめていこう。</p>	<p>① 近世の世界交易の構造について、図や表をつくってまとめよう。</p> <p>②-1 ヨーロッパとアジアの国を一つずつ選び、近世における国家体制・宗教・社会構造・文化の特徴をまとめてみよう。</p> <p>②-2 近世に形成された日本の国家・社会・文化の特徴のなかで、近代以降も日本社会のなかに根強く生き残っていたり、あるいは日本のイメージに深く関わっていたりすると思われるものをあげてみよう。</p> <p>③-1 それぞれの図版について、これらが描かれた背景にある歴史的な状況はどのようなものか、説明してみよう。</p> <p>③-2 これらの図版をみて、気がついたことをあげてみよう。人物の顔つき、髪型や服装、しぐさはどのように描かれているだろうか。そのほか、周辺に描かれた乗り物や道具などにも注目してみよう。これらの描き方から、描き手が異文化に対してどのようなイメージや関心をもっていたのか、読み取ってみよう。</p> <p>③-3 ここにあげた図版以外にも、この時代の異文化接触に関わる絵画などの視覚資料をさがし、それが異文化に対する当時の人々のどのような見方を反映しているのか、考えてみよう。</p> <p>③-4 19世紀以後、情報伝達手段は飛躍的に発達し、また人の移動の活発化や植民地化の進展により、他地域に対して人々の得る情報はさらに急速に増大していった。このことは、人々の異文化に対する理解をどのようにかえていったのだろうか。今日の私たちは、どのような情報をつづいて他国の社会や文化を知り、どのように他文化のイメージを形成しているだろうか。</p>	<p>①-1 日本と、トルコ・中国など、非欧米諸国の近代化の歴史を比較してみよう。</p> <p>①-2 日本の1930年代の政治体制と、ドイツ・イタリアのそれとを、独裁の程度という観点から比較してみよう。</p> <p>①-3 世界において自由貿易体制が成立したのはいつからだろうか。どのような国がそれを支持し、どのような国がその体制でメリットを得てきたのだろうか。</p> <p>①-4 アメリカやイギリスは、20世紀後半、何度が経済的な困難に直面し、イギリス病、あるいはアメリカの衰退などが指摘されたが、その後、それを克服したようにもみえる。どのような問題が存在し、どのように復活したのだろうか。</p> <p>②-1 各時期で、一人あたりの国民総生産額がもっとも高い国ともっとも低い国をあげてみよう。それはどのように変化しているだろうか、また変化していないだろうか。</p> <p>②-2 一人あたりの国民総生産額が低い国からみて、高い国は何倍くらいにあたるだろうか。その数字は時代を追ってどのように変化しているだろうか。</p> <p>②-3 表1の国のなかには、ある時期に急激な成長をとげている国がある。それはどの国のいつの時期だろうか。また、そのような成長はなぜおこったのだろうか。教科書の記述などを参考にして説明してみよう。</p> <p>②-4 1965年の一人あたりの国民総生産額と、1990年のそれを比較して、各国ではどれくらい経済成長を経験しているだろうか。その成長の度合いが大きい国と小さい国はどの国だろうか。成長の小さい国はどのように小さくなるだろうか、説明してみよう。</p>

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
研究課題				<p>④ 近代の世界貿易や政治的支配関係の構造について、図や表をつくってまとめてみよう。</p> <p>⑤ 開国から明治維新にいたる時代の日本人がみた東アジアの地域の政治的・経済的な情勢をまとめてみよう。彼らにとって「富国強兵」がどのような意味をもっていたのか、考えてみよう。</p> <p>⑥-1 なぜ福沢は、明治維新直後の日本において、アメリカ独立宣言を紹介しようとしたのだろうか。</p> <p>⑥-2 福沢によれば、人間の価値は何によって決まるのだろうか。福沢がそのことを『学問のすゝめ』の冒頭で強調しているのは、なぜだろうか。第IV部で学習したアメリカ独立宣言やフランス人権宣言などと比較しつつ、これらの点を考えてみよう。</p> <p>⑥-3 彼が「すゝめ」の実学とは、どのような特徴をもった学問なのだろうか。そして、なぜ彼は実学の重要性を説いたのだろうか。</p> <p>⑥-4 国家の独立とは、何を意味しているのだろうか。なぜ国家は独立すべきなのだろうか。さらに福沢は「身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり」と述べ、個人の独立が国家の独立につながる(個人の独立がなければ国家の独立はない)ことを強調しているが、それはどのような論理に基づいているのだろうか。</p> <p>⑥-5 福沢の主張はあなたにとって共感・賛同できるものだろうか、それとも反発・批判を呼ぶものだろうか。そして、あなたがそう判断する理由は何だろうか。</p>	<p>②-5 なぜ表には、一があるのだろうか。統計数字がない、または信憑性のある数字がないとはどういうことだろうか。考えたことを話しあってみよう。</p> <p>②-6 つぎに、表2の国民所得額の推移についても、上記①～⑤の諸点に注意して、1990年以降の変化についてわかることをまとめてみよう。</p> <p>②-7 エチオピアは、世界でも最貧国の一つといわれている。最貧国とはどのような意味なのだろうか。またなぜ最貧国は最貧国でありつづけてしまうのだろうか。エチオピアや他国の例をあげて説明してみよう。</p> <p>②-8 日本のなかにはどのような格差があるのだろうか、または、ないのだろうか。最近50年間の推移を示してみよう。また、そのような推移はどうして生じたのか説明してみよう。</p> <p>②-9 経済的な豊かさが、豊かさの重要な構成要素だとして、先にあげた一人あたりの国民総生産額や一人あたりの国民所得額の統計からだけでは、その経済的豊かさの変化が十分読みとれない、という批判がありうる。この統計にはどのような欠陥があるのだろうか、またどのような情報が欠けているであろうか。たとえば、日本の一人あたりの国民総生産額や、一人あたりの国民所得額をドルではなく、円で示すとどうなるであろうか。時代ごとの円・ドルの為替レートを調べて計算してみよう。</p> <p>②-10 経済的な豊かさは、豊かさの指標の重要な構成要素だが、それだけで豊かさがすべて示せるわけではない。では他にどのような指標をあげることが重要だろうか。またそのような指標をあげたときに、最近50年間の世界の格差はどのように縮小したり、拡大したりしているだろうか。</p>

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主題学習に関する内容 発行者 山川314 】(世界史B)

	(1)世界史への扉	(2)諸地域世界の形成	(3)諸地域世界の交流と再編	(4)諸地域世界の結合と変容	(5)地球世界の到来
取り上げている事項	①自然災害と人類(P4~5) ②日本の年中行事・祭りと世界(P6~7) ③弦楽器の世界史(P8~10)	①時間軸からみる諸地域世界(P62)	①空間軸からみる諸地域世界(P112)	①資料から読みとく歴史の世界(P190)	①資料を活用して探究する地球世界の課題(P259)
研究課題	① さまざまな自然現象が人類にあたえた影響について調べ、歴史を学ぶうえで自然の果たす役割について考えてみよう。 ②-1 そこで、1872(明治5)年まで日本で使用されていた旧暦を念頭において、日本の年中行事や祭りをとりあげ、世界との関わりを考えてみよう。 ②-2 世界各地の風習を調べ、その歴史的背景を考察してみよう。 ③-1 そこで音楽をかなでる楽器のうち、とくに弦楽器をとりあげて、その起源や変遷などについて考えてみよう。 ③-2 ここでは音楽や楽器という日常生活にあふれているものをつうじて、世界との関わりや現在の日本にあたえた影響を考察してきたが、楽器だけでなく身近にあるさまざまなものにも、世界の歴史との関わりを考えるヒントがあることに注目してみよう。	①-1 下の年表の空白部にあてはまる遊牧民の名称を記入しよう。 ①-2 遊牧民の活動が、イランや中国の王朝、ヨーロッパの王国にどのような影響をあたえたかについて、教科書を参照しながら考察してみよう。	①-1 下の地図「11世紀の世界」の空白部に、あてはまる国名を記入しよう。 ①-2 崩壊・衰退した帝国と、新たに成立した国家の特徴を比較してみよう。その際、とくに宗教に注目してみよう。またヨーロッパに成立した国家が、たがいどのような関係をきずいていたかについても調べてみよう。 ①-3 内陸アジアや西アジア各地に国家をつくった民族に注目し、彼らの活動がその後どのような影響を世界にもたらしたか、調べてみよう。	①-1 絵画のなかで、今まさに銃殺されようとしているのはどのような人々だろうか。また、銃を向けているのはどのような軍隊だろうか。 ①-2 「ゲリラ」とはスペイン語の戦争を意味する「ゲラ」から生まれたことばである。文献からはどのような組織をつくるように指示しているのだろうか。	①-1 「食料価格指数の推移」と「栄養不足人口の推移」のグラフはどのような相関関係にあるのだろうか。また、食料価格高騰の大きな原因はなんだろうか。 ①-2 2011年8月の国際連合食糧農業機関(FAO)の最新統計では、アフリカのサハラ砂漠以南の国々が、栄養不足の深刻な上位10カ国中9カ国を占めている。なぜこの地域に集中しているのか。その理由も考察してみよう。また統計から現在の課題をさぐり、その解決に取り組む方法などを考えてみよう。

※取り上げている事項は、本文中のタイトル(テーマなど)を抽出し、研究課題は、取り上げている事項それぞれに示されている課題を抽出した。

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 我が国の領域をめぐる問題の扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島 その他
東書	308	世界史B	・コラム「ポーダレス時代のナショナリズム」(P432)の中で紹介 北方領土問題のほか、日本海では、竹島をめぐる韓国との間に領土問題がある。	・コラム「ポーダレス時代のナショナリズム」(P432)の中で紹介 北方領土問題のほか、日本海では、竹島をめぐる韓国との間に領土問題がある。	・コラム「ポーダレス時代のナショナリズム」(P432)の中で紹介 東シナ海では、中国が尖閣諸島の領有権を主張している ・同コラムの中で要因や背景について説明 これらの対立は、竹島では漁業権、尖閣諸島では石油など、資源の問題だけでなく、国家や民族の威信をかけたナショナリズムとも結びつき、解決が困難になっている。
実教	309	世界史B 新訂版	記載なし	記載なし	・本文(P67)「現代の東アジア世界」 「日本と韓国・中国の間では、政府間の相互批判や中国の海洋進出により、緊張関係が高まっている」
山川	310	詳説世界史 改訂版	・脚注(P380)で紹介 「齒舞・色丹・国後・択捉の4島は、1855(安政元)年2月の日露和親条約で日本領土と認められたが、第二次世界大戦後、旧ソ連とロシア連邦は4島を占領しつづけ、日本は平和条約の締結による返還を求めている」	記載なし	記載なし
東書	311	新選世界史B	記載なし	記載なし	記載なし

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 我が国の領域をめぐる問題の扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島 その他
帝国	312	新詳 世界史B	<p>(P285 注記)                      ヤルタ秘密協定と北方領土問題                      ドイツ降伏後3か月以内にソ連が対日参戦し、樺太南部・千島列島をソ連が領有することが約束された。日ソ中立条約(→p.280)を遵守すればソ連は1年以上先の1946年4月まで対日参戦できなかったが、戦争負担の軽減を望むアメリカと領土拡大を望むソ連のおもわくが一致した結果の秘密協定だった。この秘密協定は現在の北方領土問題の一因になっている。</p> <p>(P292 注記)                      ・日本の国土                      日本の領土はポツダム宣言(→P285)の受諾にもとづいて、本州・北海道・九州・四国とその周辺の島々に限られた。1945年にソ連に占領された北方領土四島については、今日でもロシアの行政下にあり、日本政府はその返還を要求している。</p>	記載なし	記載なし
山川	313	新世界史 改訂版	記載なし	記載なし	<p>(P423 コラム)                      ・中国と南シナ海・東シナ海                      このようななか、2010年9月、尖閣諸島付近で日本の海上保安庁の巡視船に故意に衝突した中国漁船の船長を日本の排他的経済水域(EEZ)内で逮捕した。中国は尖閣諸島(中国名で釣魚台列嶼)を自国領土と主張し、船長の釈放を要求しただけでなく、電子機器の製造に不可欠なレアアースの対日輸出禁止を実施した。アメリカは、尖閣諸島が日本の施政権下にあるため、日米安全保障条約に規定されたアメリカの日本防衛義務の対象になることを公的に表明した。日本が同年9月下旬に船長を処分保留で釈放したものの、この事件は日中関係を緊張させた。中国は現在、それまでの平和的台頭を基本とした外交から、より強く主張する外交に転換しつつある。</p>
山川	314	高校世界史 改訂版	記載なし	記載なし	記載なし

「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	308	世界史B	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文(P269)</li> <li>本文(P269)</li> <li>本文(P411)</li> <li>本文(P416)・地図(P417)</li> <li>本文(P425)</li> <li>本文(P428)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イギリスではじまった産業革命</li> <li>石油危機とサミット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18世紀にはまだ水力が主流であった。</li> <li>石炭は蒸気機関の燃料ともなった。</li> <li>サウジアラビアをはじめとするアラブ石油輸出機構(OAPEC)は、親イスラエルの国への原油輸出の停止や制限の処置をとり、石油輸出機構(OPEC)は原油価格の4倍増を決定した。安価な石油に支えられてきた先進諸国の経済は、大きな打撃を受けた。(第1次石油危機[オイルショック])。また、79年にイラン革命がおこると、革命政府が石油供給を削減し、石油価格は再び高騰した(第2次石油危機)。</li> <li>86年のチェルノブイリ原子力発電所事故はその科学技術の問題点を明らかにした。</li> <li>この戦争で巨額の負債をかかえたイラクは90年に豊かな石油資源をもつ隣国クウェートに侵攻した。</li> <li>2011年3月11日におこった福島第一原子力発電所の事故は、原発事故の規模や影響の大きさを世界が再認識するとともに、原子力の平和利用や安全、科学技術への信頼に大きな疑問を投げかけた。</li> </ul>
実教	309	世界史B 新訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文と写真(P23)</li> <li>本文(P245)</li> <li>本文(P282)</li> <li>注(P286)</li> <li>写真(P296)</li> <li>本文(P384)</li> <li>本文(P394)</li> <li>本文(P394~395)</li> <li>本文(P420)</li> <li>本文(P424)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地中海世界の気候</li> <li>イギリスの産業革命</li> <li>第2次産業革命</li> <li>帝国主義</li> <li>1900年パリ万国博覧会の「電気館」</li> <li>ブレジネフからゴルバチョフへ</li> <li>第4次中東戦争と石油戦略</li> <li>イラン=イスラム革命とイラン=イラク戦争</li> <li>現代の西アジア</li> <li>地球環境の危機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電施設(スペイン)雨が少ない地中海沿岸は太陽光発電に最適なため、大規模な発電施設が建設されている。</li> <li>鉄の精錬や蒸気機関の燃料に必要な石炭を産出する石炭業を発展させた。</li> <li>19世紀末には、石油と電気を動力源とする第2次産業革命が起こり、重化学工業・鉄鋼業・電気工業などが飛躍的に進歩した。</li> <li>繊維産業などの軽工業を中心として、石炭をおもな動力源とした第1次産業革命に対し、第2次産業革命は、機械・鉄鋼・化学産業などを中心として、石油や電力が新たな動力源となった。</li> <li>石油と電力を動力とする第2次産業革命を反映して『電気館』が建設された。</li> <li>1986年に、チェルノブイリ原子力発電所で死者を含む大量の被爆者を出した爆発事故が起こったとき、情報隠ぺいなどの問題がさらに明らかになり、改革は加速した。</li> <li>この戦争にさいしてアラブ産油国は、反アラブの立場をとる国への石油供給を制限し、石油価格を大幅に引き上げる作戦に出た(第1次石油危機、オイルショック)。</li> <li>経済が疲弊したイラクは、90年に石油資源を有する隣国クウェートに侵攻して、併合を宣言した。</li> <li>これまでの石油の争奪に加えて、太陽光発電への期待が高まっている。</li> <li>エネルギー源としての化石燃料(石炭や石油)から出る二酸化炭素などの温室効果ガスによる気温の上昇(地球温暖化)</li> </ul>
山川	310	詳説世界史 改訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文(P308)</li> <li>本文(P394)</li> <li>本文(P395)</li> <li>本文(P396)</li> <li>本文(P410)</li> <li>本文(P416)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2次産業革命と帝国主義の成立</li> <li>石油危機</li> <li>原子力発電所事故</li> <li>現代の科学技術</li> <li>地球世界の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の産業革命が、石炭と蒸気力を動力源に、軽工業や製鉄業の分野でおこったのに対し、新しい工業や技術は石油と電力を動力源に使い、重化学工業・電気工業・アルミニウムなどの非鉄金属部門を発展させたので、第2次産業革命と呼ばれている。</li> <li>第4次中東戦争が起こると、サウジアラビアなどアラブ石油輸出機構(OAPEC)は、イスラエルを支援する諸国に対して原油輸出の停止や制限の処置をとった。同時に石油輸出機構(OPEC)は原油価格の大幅引き上げを決定したため、安価な石油を前提に経済成長を続けてきた先進工業国は深刻な打撃を受けた(第1次石油危機)。</li> <li>国王を支援してきた合衆国とイランの対立が激しくなり、石油価格が急騰して(第2次石油危機)新たな中東危機の焦点となった。</li> <li>1979年はアメリカ合衆国のスリーマイル島原子力発電所で放射能もれの事故がおこり、86年チェルノブイリ原子力発電所で深刻な事故が発生し、原子力発電の将来にも問題が指摘されるようになった。</li> <li>戦後、原子力の開発は水素爆弾などいっそう強力な兵器をうみだすとともに、原子力発電などもすすめられた。その他、第二次世界大戦中には石油を原料としてナイロンなどの化学繊維やプラスチックなどの人工素材を生産する石油化学も発達した。</li> <li>エネルギー資源・鉱物資源の枯渇と新エネルギーの開発、人口の増減の地域的不均衡や生活水準・人権などの地域的格差の拡大などは、現代社会が直接的、あるいは間接的につくり出した問題であり、人類が協同し、連帯しなければ対応することができない性格をもっている。</li> </ul>

「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	311	新選世界史B	有	P241 本文 P241 グラフ・注記 P246 写真・注記 P253 本文	南北問題と資源戦略 戦後の原油価格の推移 チェルノブイリ原発事故 これからの私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1973年の第4次中東戦争では、アラブ産油国は石油戦略により、非友好国への輸出禁止、原油価格の大幅引き上げと原油供給の削減を決めて、エジプトなどを支援した。1970年代以降、アラブ産油国は国際政治での発言力を高めた。</li> <li>・西側諸国の工業発展は、エネルギー消費と石油への依存度を高めた。日本でも1960年代、石炭から石油への転換がはかられた。</li> <li>・1986年4月に、ウクライナの首都キエフ近郊でおきたこの事故をソ連政府はすぐに公表せず、被害が拡大した。</li> <li>・2011年、日本は、東日本大震災と福島での原子力発電所の事故で大きな打撃を受けた。大震災では、160以上の国や地域が支援を表明し、世界各地の一般市民も支援の輪に加わった。原発事故を機におきた今後のエネルギー政策をめぐる議論でも、日本のできごとを地球世界の一員として共有しようとする気運が高まった。</li> </ul>
帝国	312	新詳 世界史B	有	P2 本文 P304 本文 P304～305 本文 P307 コラム P310 注記 P312 本文 P323 年表 P323 地図	自然災害と社会・国家 湾岸産油国の台頭と石油戦略 西側諸国の新自由主義 高度経済成長からバブル経済へ イラン-イラク戦争 東欧社会主義圏の解体 公害・環境問題 世界のおもな環境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災では、原子力発電所の防災設計が不十分だったために、原子炉でメルトダウンが起こる大事故が発生した。</li> <li>・エジプトのサダト大統領は、1973年にシリアとともにイスラエルを攻撃し(第4次中東戦争)、イスラエルと戦うアラブ諸国と、それを財政的に支援する産油国が団結することを推進した。これは、祖国を失ったパレスチナ人の権利を回復するよう国際社会に要求するものであった。OPECは、戦争開始とともに石油戦略として、要求を認めない国を非友好国ととらえ石油輸出の制限をした。そのため、石油価格が世界的に高騰し、これによって第1次石油危機(オイル＝ショック)が起こった。</li> <li>・1973年の石油危機(オイル＝ショック)によって、原油価格が急上昇すると、安い石油を利用して高度成長を続けてきた西側先進工業国の経済は、深刻な打撃を受け、日米間の貿易摩擦も起こった。</li> <li>・1980年代の日本は、省エネ技術の開発により石油危機からいち早く立ち直った。</li> <li>・両国の国境地帯で始まった戦闘が、のちに湾岸を航行する石油タンカーにも波及し、石油の安定供給に不安を与えた。</li> <li>・1986年にチェルノブイリ原子力発電所で大事故が発生した際に、情報隠ぺいなど、ソ連社会主義体制の欠陥が広く認識されるようになると、改革の動きは加速した。</li> <li>・1979 スリーマイル島原発事故 ・1986 チェルノブイリ原発事故 ・2011 福島で原発事故</li> <li>・スリーマイル島原発事故 ・チェルノブイリ原発事故 ・福島で原発事故</li> </ul>



「別紙2-3」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
山川	313	新世界史 改訂版	有 無	P403 本文	中東での戦争と革命	・ついで1973年、エジプトとシリアは失地回復を目的に掲げてイスラエルに攻撃を開始した(第4次中東戦争)。このとき、石油輸出国機構(OPEC)はイスラエル寄りの国に対して石油輸出の制限と石油価格の大幅な引き上げを断行したが、これは安価な石油に依存していた世界経済に打撃を与え(石油危機<オイル=ショック>)、世界的な不況を引きおこした。
				P409 本文	米ソ関係の転換	・86年におこったチェルノブイリ原子力発電所の事故は、ソ連社会の人命軽視の体質を露呈するとともに、西側との協力の必要性を明らかにした。
				P425 本文	新しい文明	・核兵器や生物・化学兵器のような大量破壊兵器が開発され、原子力発電の危険はチェルノブイリ原発事故や東日本大震災における福島第一原発の事故(2011年)からも明らかである。
山川	314	高校世界史 改訂版	有 無	P245 本文	国際経済体制のいきづまり	・1973年に第4次中東戦争がおこった際、アラブ石油輸出国機構がイスラエルを支援する国に対して原油輸出の停止や制限の処置をとった。同時に産油国が原油価格を大幅に引き上げたため、安い価格の石油を大量に使って経済成長を続けてきた先進工業国は深刻な打撃をうけた(第1次石油危機)。
				P246 本文	途上国の工業化と先進国の社会変容	・その後、86年にソ連内のウクライナのチェルノブイリ原子力発電所で深刻な事故が発生すると、このような環境の危機に対応して、87年には国連の委員会が、「地球環境の保全」と「持続可能な発展」の両立の重要性を指摘する報告書を発表した。
				P246 写真	チェルノブイリ原発事故	・この事故による被災者は数百万人、被害は周辺諸国にも広がった。
				P256 本文	現代文明の諸相	・また量子力学などの分野が急成長し、物質の最小単位が解明されたうえ、核爆発による膨大なエネルギーの発生が実証された。

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
東書	308	世界史B	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文(P40)</li> <li>・コラム(P401)</li> <li>・写真(p407)</li> <li>・写真(p422)</li> <li>・本文と写真(p431)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリスの成立</li> <li>・サハラ以南のアフリカ諸国の独立</li> <li>・アジアの経済成長</li> <li>・東アジアの経済発展と民主化の進展</li> <li>・中国の台頭と東アジア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックの祭典やデルフォイの神託を通じて、同一の民族としての自覚を失うことはなかった。</li> <li>・東京オリンピックとザンビア独立</li> <li>・開会式で入場する日本選手団、新幹線の開業</li> <li>・開会式で「統一旗」を掲げ行進する韓国と北朝鮮の選手たち</li> <li>・08年北京オリンピック、10年の上海万博をへて、同年に中国は国内総生産(GNP)で世界第2位の経済大国へ躍進(本文)</li> <li>開会式(写真)</li> </ul>
実教	309	世界史B 新訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文(P13)</li> <li>・本文(p33)</li> <li>・注(p377)</li> <li>・本文(p406)</li> <li>・注(p422)</li> <li>・年表(p435)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカーと世界史</li> <li>・ギリシア文明</li> <li>・新冷戦から冷戦の終結へ</li> <li>・東アジア冷戦体制の変容</li> <li>・現代の東アジア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップやオリンピックを通じて、グローバルスポーツとしてのこんにちの地位を獲得した。</li> <li>・4年に一度開かれるオリンピックの祭典</li> <li>・アメリカや日本など西側諸国の多くは、ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して、1980年のモスクワオリンピックをボイコットした。</li> <li>・翌年にせまるソウルオリンピックへの影響を懸念した全斗煥は再選を断念</li> <li>・2008年に北京でオリンピックを開催し、2010年に上海で万国博覧会をひらくことによって、経済発展の様相を世界に改めて示した。</li> <li>・64 東京オリンピック</li> </ul>
山川	310	詳説世界史 改訂版	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文(P30)</li> <li>・年表(p431)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリスの成立と発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年に一度開かれるオリンピックの祭典などをつうじて、同一民族としての意識を持ち続けた。</li> <li>・64 東京オリンピック</li> </ul>
東書	311	新選世界史B	有 無	<ul style="list-style-type: none"> <li>P25 本文</li> <li>P25 注記</li> <li>P201 本文</li> <li>P201 年表</li> <li>P222 写真</li> <li>P231 注記</li> <li>P265 年表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポリスの成立</li> <li>壺絵にえがかれたオリンピック競技</li> <li>国際的組織の誕生</li> <li>おもな国際的組織の発足</li> <li>ベルリン・オリンピック(1936年)</li> <li>東京オリンピック(1964年)</li> <li>日本 東アジア・北アジア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらのポリスは独立していたが、共通の言語と宗教によってギリシア人としての一体感をもち、共同でオリンピック競技などを行った。</li> <li>・ゼウスの神殿のあるオリンピックでは、4年に1度の祭典が開催された。戦車競走やスポーツ競技が行われ、男性だけが参加を許された。</li> <li>・19世紀末には、国際オリンピック大会がはじまった。</li> <li>・1894 国際オリンピック委員会</li> <li>・ベルリンでひらかれた第11回オリンピック大会は、ナチス・ドイツの威信を世界に示そうと、国家をあげて取り組まれた。聖火リレーは、この大会からはじまった。聖火リレーのルート調査は、のちにドイツのバルカン半島進撃に役立てられたという。</li> <li>・高度経済成長の時期にあった日本では、オリンピック開催にあわせて高速道路が開通し、東京・大阪間の新幹線も開業した。</li> <li>・1964 東京オリンピック</li> <li>・2008 北京オリンピック</li> </ul>

「別紙2-4」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
帝国	312	新詳 世界史B	有 無	P20 注記 P308 コラム P308 写真 P308 年表 P317 本文 P322 写真	共通の民族意識 社会をみる オリンピックと経済発展 ・東海道新幹線の開通(1964年) ・第二次世界大戦後のおもな夏季大会 台頭する中国 サッカーワールドカップでユニフォームを交換しあう代表選手(2014年 ブラジル)	・また、デルフォイの神託やオリュンピアの祭典などで、共通意識は深まった。 ・1964年の東京オリンピックは、敗戦後の日本の復興と経済成長、国際社会への復帰の成果であった。それと同時に、大規模な競技場や交通インフラの建設は経済成長を促進させ、そのようすはテレビの普及によって全国に伝えられた。ソウル(1988年)、北京(2008年)などのオリンピックも同様に経済成長をうながしたが、ソウルでは、冷戦が終結に向かう動きのなかで韓国の民主化定着の機会になったのに対し、北京では、グローバル化とナショナリズムのぶつかりあいを反映して、中国の国威発揚が前面に出るなど(→p.317)、違いもみられた。なお、大規模な公共事業の経済効果が低下した現在では、コンパクトなオリンピックが世界の流れとなっている。 ・1964 東京 初めてアジアで開催 80 モスクワ ソ連のアフガン侵攻を批判する西側諸国の不参加 84 ロサンゼルス モスクワ大会の報復で東側諸国の不参加 88 ソウル 韓国の民主化を象徴 ・2008 北京 中国の経済成長と国威発揚が前面に 12 ロンドン コンパクトな会場づくりと評される 16 リオデジャネイロ 南アメリカ大陸で初の開催 20 東京 ・北京オリンピック(2008年)や上海万国博覧会(2010年)を経て、中国は大国として自信をもってきたが、人権について国際社会からの批判も多くなり、中国の知識人もこの点に関心を強めた。 ・スポーツは、19世紀の国民国家の時代から、近代オリンピックにみられるように、国別対抗で行われることが多くなり、観衆の間にナショナリズムをはぐくむ役割を果たしてきた。一方で、スポーツは国境を越える交歓の場や活躍の機会も提供してきた。
山川	313	新世界史 改訂版	有 無	P28 本文 P401 注記 P402 本文	ポリスの成立と発展 アジアの不均衡な発展 アジアの不均衡な発展	・しかし、ギリシア人のあいだでは自分たちを「ヘレネス」と呼んで、共通の言語と神話、アポロン神の神託、オリュンピアの祭典への参加などをつうじて共通の民であると認識していた。 ・国際的地位の上昇にともない、1964(昭和39)年には東京オリンピック、70(昭和45)年には大阪で万国博覧会が開催された。 ・80年に学生や労働者の民主化要求の運動を武力で弾圧する光州事件がおこったが、87年には民主化を宣言し、88年にはソウル=オリンピックを開催して、国際的地位を高めた。
山川	314	高校世界史 改訂版	有 無	P23 本文 P170 本文 P264 年表 P267 年表	ポリスの成立と発展 国際的諸運動の進展 年表(西ヨーロッパ)(東ヨーロッパ・ロシア) 年表(日本)	・しかしギリシア人は共通の言語と神話、4年に1度ひらかれたオリュンピアの祭典などをつうじ、同一民族としての意識をもち続けた。 ・さらに96年より、国際親善を目的に国際オリンピック大会がはじまった。 ・1896 第1回近代オリンピック大会 ・1964 東海道新幹線開通。東京オリンピック

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】(世界史B)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
東書	308	世界史B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間軸から見る諸地域世界と空間軸から見る諸地域世界の特集ページがある。</li> <li>・日本史との関連についてのコラムが多数ある。</li> <li>・各章の冒頭に地理的環境を示し、年表を入れて歴史の流れを概観している。</li> </ul>
実教	309	世界史B 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムを「世界史の探求」「世界の中の日本」「世界史の中のジェンダー」「人物」のカテゴリーで構成している。</li> <li>・各ページに地域ごとのインデックスが付いている。</li> <li>・第1部各章の扉には必ず自然環境を紹介している。</li> </ul>
山川	310	詳説世界史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部・各章の初めに、これから学習する内容のついでに要点を記述し、生徒の興味、関心を高める工夫をしている。</li> <li>・第IからIV部の末に必ず「まとめ」の特集がある。</li> <li>・第IからIV部の末に必ず「主題学習」の特集がある。</li> </ul>
東書	311	新選世界史B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界史に興味を持たせるコラムや日本史との関連が学べるコラム、人物に焦点を当てたコラムなど数種類のコラムがある。</li> <li>・掲載している写真や図が鮮明で大きく、生徒の興味・関心を高める構成になっている。</li> <li>・各節には問いが示されており、また、出来事や人物には西暦を表記し、学習しやすいようになっている。</li> <li>・各章の初めには、見開き2ページで地理的な内容や歴史に関連する項目が地図や写真等とともに示され、生徒が大観できるよう工夫されている。</li> </ul>
帝国	312	新詳 世界史B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史との関連が学べるコラムに加え、現代につながる諸課題を学べるコラムがあり、現代的諸課題の理解を深められるようになっている。</li> <li>・年表やグラフが数多く掲載されていて、歴史の流れや統計データの推移などを把握しやすいようになっている。</li> <li>・側注の情報量が非常に豊富で歴史の内容をより深く学べるようになっている。</li> <li>・学習内容の冒頭には「2行程度の要約」や「節のポイント」が設定され、最初に全体を広く学ぶことができるようになっている。</li> </ul>
山川	313	新世界史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラムが随所に掲載され、歴史的事象を深く理解させるよう工夫されている。</li> <li>・各部の冒頭にテーマを設け、その時代の大きな歴史の流れを掲載し、時代の特徴を捉えられるよう工夫されている。</li> <li>・各節末には、まとめや主題学習が設けられ、既習事項を復習しながら、深い理解に導くよう工夫されている。</li> <li>・各地域世界の風土や地図を多く掲載するとともに、地理的条件と関連付けている。</li> </ul>
山川	314	高校世界史 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史に対する興味をもたせたり、日本と世界との関連を意識付けさせたりするコラムや資料が充実している。</li> <li>・要所で、各世紀の世界を地図で大きく示した見開き2ページで掲載し、空間的理解を促している。</li> <li>・重要語句を太字で掲載するなどして、見やすいように工夫されている。</li> <li>・各部に設けた「統治システムと宗教」のページで、各部を政治と宗教の視点から振り返ることができる。</li> </ul>